日本看護技術学会　技術研究成果検討委員会　主催

日本看護技術学会第15回学術集会
移動動作評価班交流セッション報告書

日本看護技術学会第15回学術集会交流セッション10

（続）移動動作ガイドラインに基づく補助具を使用した安全安楽な方法の検討

移動動作評価グループ

西田直子[1]　水戸優子[2]　國澤尚子[3]　平田美和[4]

若村智子[5]　小林由実[2]　冨田川智志[6]

[1]京都学園大学　[2]神奈川県立保健福祉大学

[3]医療生協さいたま地域社会と健康研究所　[4]東京医療保健大学

[5]京都大学　[6]京都女子大学

日　時：2016年9月25日（日）

会　場：高崎健康福祉大学（群馬県）

本交流セッションの目的は、昨年度の交流セッションでの意見交換、アンケート集計結果を受けて修正・改善を行った移動動作ビデオを上映し、再度、会場参加者から意見を得ることである。また、基礎看護教育では何をどの科目で教授し、演習していくのかなど教育的な視点についても検討することとした。交流セッションの参加者は14名であった。

活動の背景

平成25年、厚生労働省労働基準局

「職場における腰痛予防対策指針」改訂

「福祉・医療分野等における介護・看護作業」

平成26年、厚生労働省 中央労働災害防止協会
腰痛予防対策講習会テキスト
「医療保健業の労働災害防止（看護従事者の腰痛予防対策）」
「社会福祉施設の労働災害防止（介護従事者の腰痛予防対策）」

交流セッションの目的

◆昨年の交流セッションの参加者との意見交換およびアンケート調査の課題点、修正・改善があった。
◆関連する文献を精読したのち討議を重ね、新たな構成・内容のもと腰痛予防指針・対策に基づく移動動作DVDビデオを作成することにした。

- 昨年度の交流セッションでの意見交換、アンケート集計結果を受けて修正・改善を行った移動動作DVDビデオを上映し、再度、会場参加者から意見を得ることである。
- 看護基礎教育では、何をどの科目で教授し、演習していくのかなど教育的な視点についても検討したい。

交流セッションの様子紹介

【会場との意見交換】

臨床現場では十分に福祉用具を使用した移動動作が実践されていない中、看護基礎教育における教授方法について意見交換がされた。

臨床現場において、福祉用具が普及していない現状では、従来のボディメカニクスを活用した移動動作を教授する必要はあるが、対象者を持ち上げない移動動作技術を教授するとともに福祉用具活用を提案していくことの必要性が確認された。

今後、移動動作技術について、どのように看護基礎教育の中で教授していくのかを検討していくことになった。

さらに、移動動作介助には特に事故への対応が必要であり、事故対策への説明を追加する必要があるのではないかというご意見を頂いた。

また、看護職者だけでなく、福祉用具の専門家等の他業界からの意見を広く頂いてはどうかという提案があった。

平成24年時の調査結果

表1　対象（看護職者）の属性

(n=466)

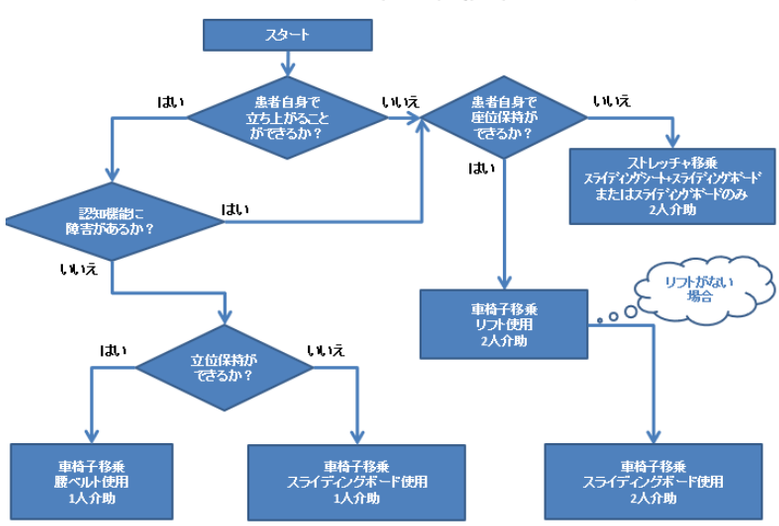
属性	区分	回答数	割合
車椅子移乗介助の機会が多い患者の条件（重複回答あり）	高齢者	385	(82.6%)
	片麻痺	198	(42.5%)
	急性期	118	(25.3%)
	運動器(筋骨格系)	99	(21.2%)
	その他	39	(8.4%)
	対麻痺	25	(5.4%)
	無回答	2	(0.4%)
車椅子移乗介助の実施頻度	5回以上/日	220	(47.2%)
	1～4回/日	175	(37.6%)
	数回/週	49	(10.5%)
	数回/月	13	(2.8%)
	その他	6	(1.3%)
	無回答	3	(0.6%)

平成27年試作DVDへの意見調査結果

＜35名の看護職者から回答結果＞

- 「車いすの適切な着座方法」⇒車椅子の角度に体幹が合うようにした。
- 「車いす使用者用トイレ・ポータブルトイレの使用法」⇒下着の上げ下ろし方法、タイミングを盛り込んだ
- 「ストレッチャーの安全なサイドレール使用」⇒採用
- 「スライディングボードとバスタオルを組み合わせての使用の是非」⇒使用しない方法を採用

ベッド⇔ストレッチャー・車いす移乗　アルゴリズム



「ノーリフティング原則」の導入した移動・移乗動作をしましょう

ご清聴ありがとうございました
多くのご意見をお寄せください

フローチャート作成の参考文献）
前田千穂他訳(2010). Audrey L. Nelson編.Safe Patient Handling and Movement ～患者の安全な介助と移動～. パシフィックサプライ.